

蔵書点検（１）－概要・手順

蔵書点検概要

- (0) 蔵書点検にあたって一旦、貸出の図書を全部返却させる。
- (1) 返却完了後、貸出を行う。(システム上は貸出は在庫)
- (2) 蔵書点検データを作成する。(全部のデータクリアと取込)
- (3) 図書バーコードを読み込ませる。(点検終了まで継続)
- (4) 不明図書などの印刷を行う。

注意： 蔵書点検開始後の貸出・返却は禁止とする。

参考： 複数のコンピュータで点検も可能ですがデータの移動を伴いますので注意してください。

蔵書点検の手順

データ初期化(全てのデータのクリア)

データ初期化を今回の蔵書点検の最初に一度だけ行います。
※ データ初期化は今回の蔵書点検が終わるまで再度行わないでください。

データ初期化(全てのデータのクリア)

The process is shown through four sequential screenshots:

- Main Menu:** A window titled '図書館ナノ!' with a grid of buttons. The '蔵書点検' button is circled in red.
- 蔵書点検 Screen:** A window titled '蔵書点検' with a '通常処理 | データ' dropdown menu circled in red.
- データ Screen:** A window titled '蔵書点検' with a 'データ' dropdown menu. The 'クリア' button is circled in red.
- データ削除 Dialog:** A dialog box titled 'データ削除' with the option '全てのデータ' selected and circled in red.

At the bottom left, a warning dialog box is shown with the text: '本当にデータのクリアを実行してもよろしいですか?' (Are you sure you want to clear the data?).

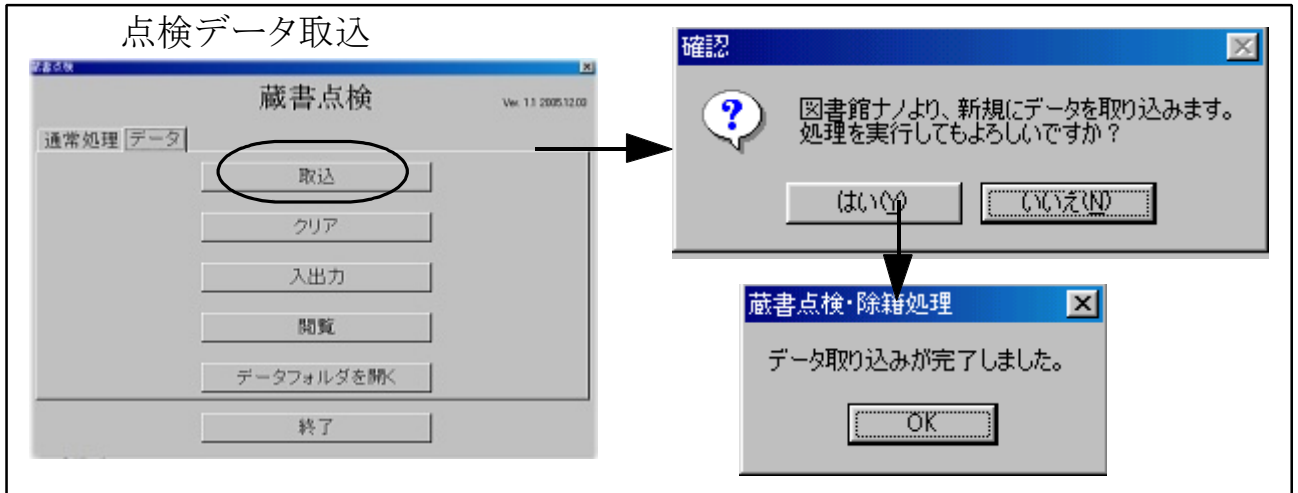
→ 点検データ取り込みへ

蔵書点検（２）－手順

蔵書点検の手順

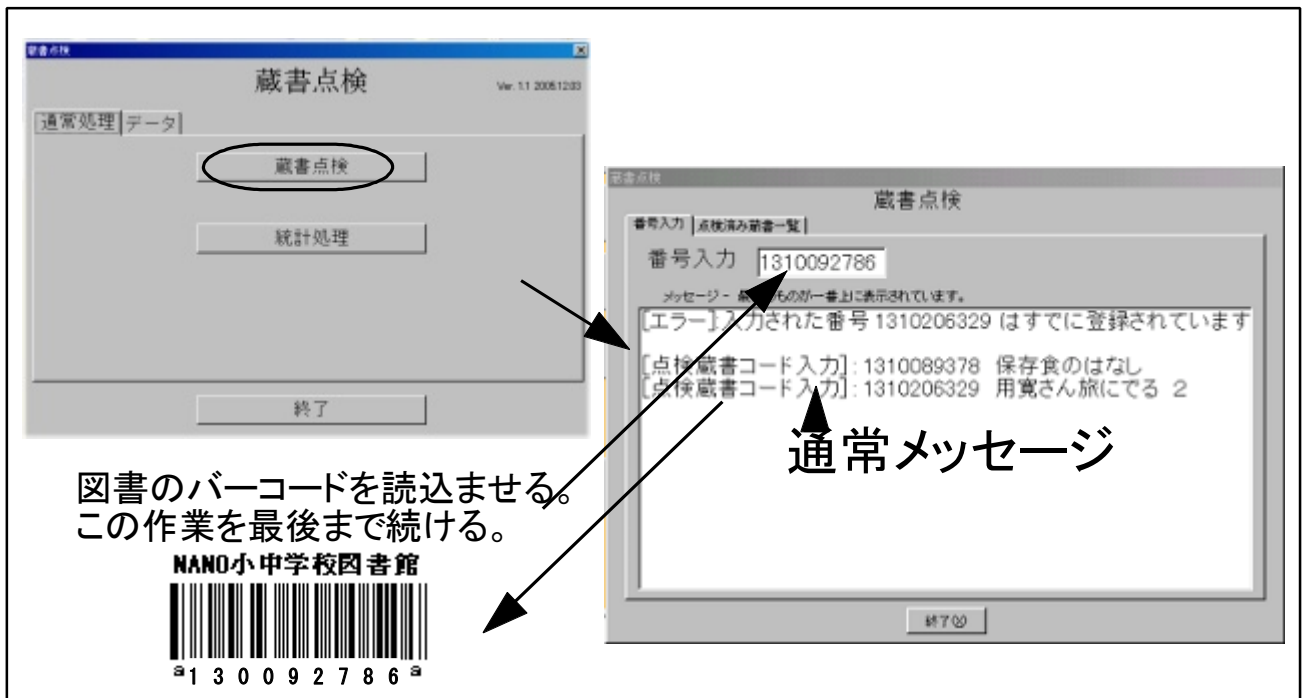
点検データ取込

点検データ取込を今回の蔵書点検の最初に一度だけ行います。
 ※ 点検データの取込は今回の蔵書点検が終わるまで再度行わないでください。
 ※ 点検作業中に返品があった場合は点検処理を行ってから棚に戻して下さい。



点検作業

蔵書点検を行いますので棚の近くに移動し蔵書点検を開始します。
 この作業を繰り返します。
 (途中で電源を切っても作業内容は失われません)

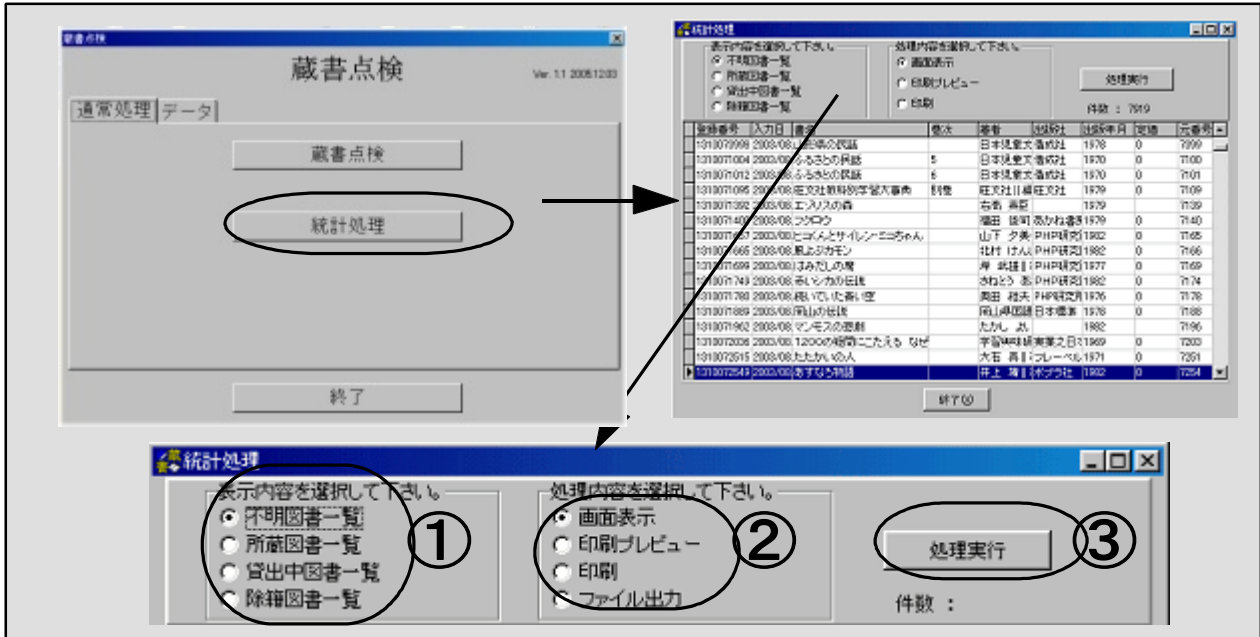


参考:他図書館の蔵書・個人の図書などの蔵書登録のない幽霊図書がある場合の処理を考えておく。

蔵書点検（3）－表示

蔵書点検データの利用

点検データ表示・印刷



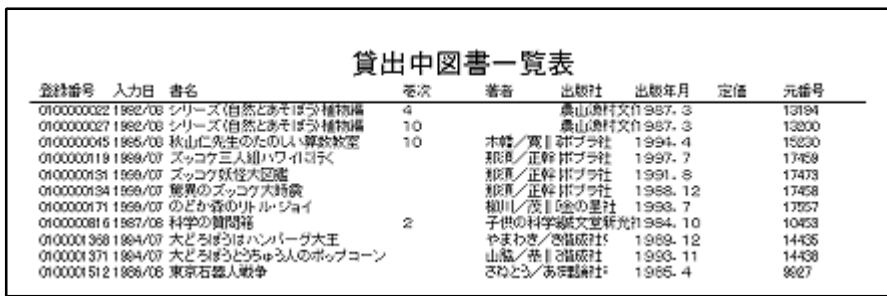
- (1) 不明図書などの表示項目にチェックをする。
- (2) 画面表示などの表示方法にチェックをする。
- (3) 処理実行ボタンを押すと下記の出力結果を得られます。

出力結果(画面・印刷・CSVの3種類)

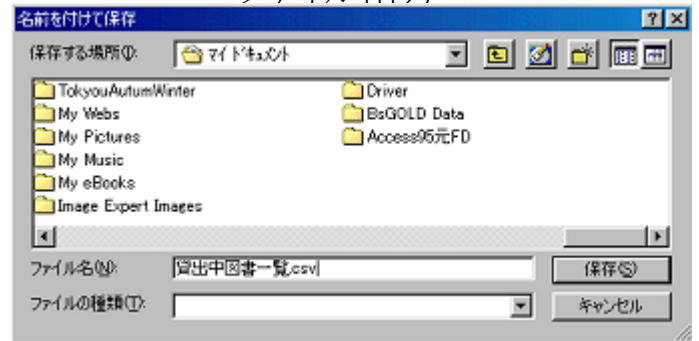
画面表示



印刷プレビュー・印刷



ファイル出力



フロッピー・フラッシュメモリーなどに保存。他のコンピュータで印刷・加工などで活用出来ます。

参考:不明図書は教室などに残っている可能性がありリストなどの形式で保存し数回(年・月)の結果をみて除籍処理を行う。担当者が変わる場合もあるので印刷・EXCELなどの外部に保存しておくことを推奨します。

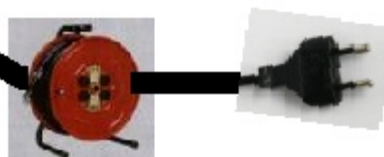
機器設定イメージ

USBの延長ケーブル(2～3m)を使用して
広い範囲の棚のスクリーンできるにする。



延長ケーブルを使用して
棚の近くまでコンピュータを持って行く。

コンピュータの台は移動を考えた軽いものを使用する。



人員は二名で行う。

1名は図書のパッケージをスキャンする。
1名はコンピュータでスキャンミス・未登録図書などを確認し再スキャン・図書を棚から外す指示を出す。

蔵書点検を2名で行うと一台のコンピュータで一日で一万冊の点検が可能。

※ 蔵書点検作業途中・紛失図書リスト配布後に図書返却が見られるので、1週間後に再度蔵書点検を行うを考える。

※ 蔵書点検後の廃棄は蔵書管理の一括で行う。

参考：複数台で蔵書点検を行い点検終了後サーバーにデータを統合するものです。

注意：データ移動の処理を伴いますのでデータ処理に慣れた方のみ行ってください。

参考：点検にノートパソコンなどを使用でき棚移動が簡単にできますが、バーコードが台数・点検済図書管理など十分な計画のもと開始してください。

複数台登録の手順

- (0) 蔵書点検のために新規に図書館ナノを導入することを推奨します。
- (1) 新規に登録ナノ・図書館ナノをSetUpする。
- (2) 通常使用の図書館ナノでバックアップを採る。
- (3) 蔵書点検用コンピュータの図書館ナノで復元する。
- (4) 蔵書点検データを作成（蔵書点検（2）－手順を参照）

蔵書点検作業を行う。

※ 通常クライアント（子供）として使用しているコンピュータを蔵書点検ではなるべく使用しないでください。

クライアント（子供）は起動する際にサーバー（親）の情報を確認しメニューを開きますのでLANケーブルを外したらエラーになりメニューが開きません。
サーバークライアントの設定をローカル設定にする必要があります。

更に蔵書点検終了後

クライアント（子供）としてサーバー（親）確認するようにLANケーブル接続・サーバークライアント設定をサーバーのIDアドレスを入力してサーバー設定を行ってからご使用ください。

この設定を忘れるとケーブル接続されメニューが表示されてもクライアント（子供）とサーバー（親）で別々のデータとなり不都合が生じます。

通常処理終了後、データ統合処理に入る前に

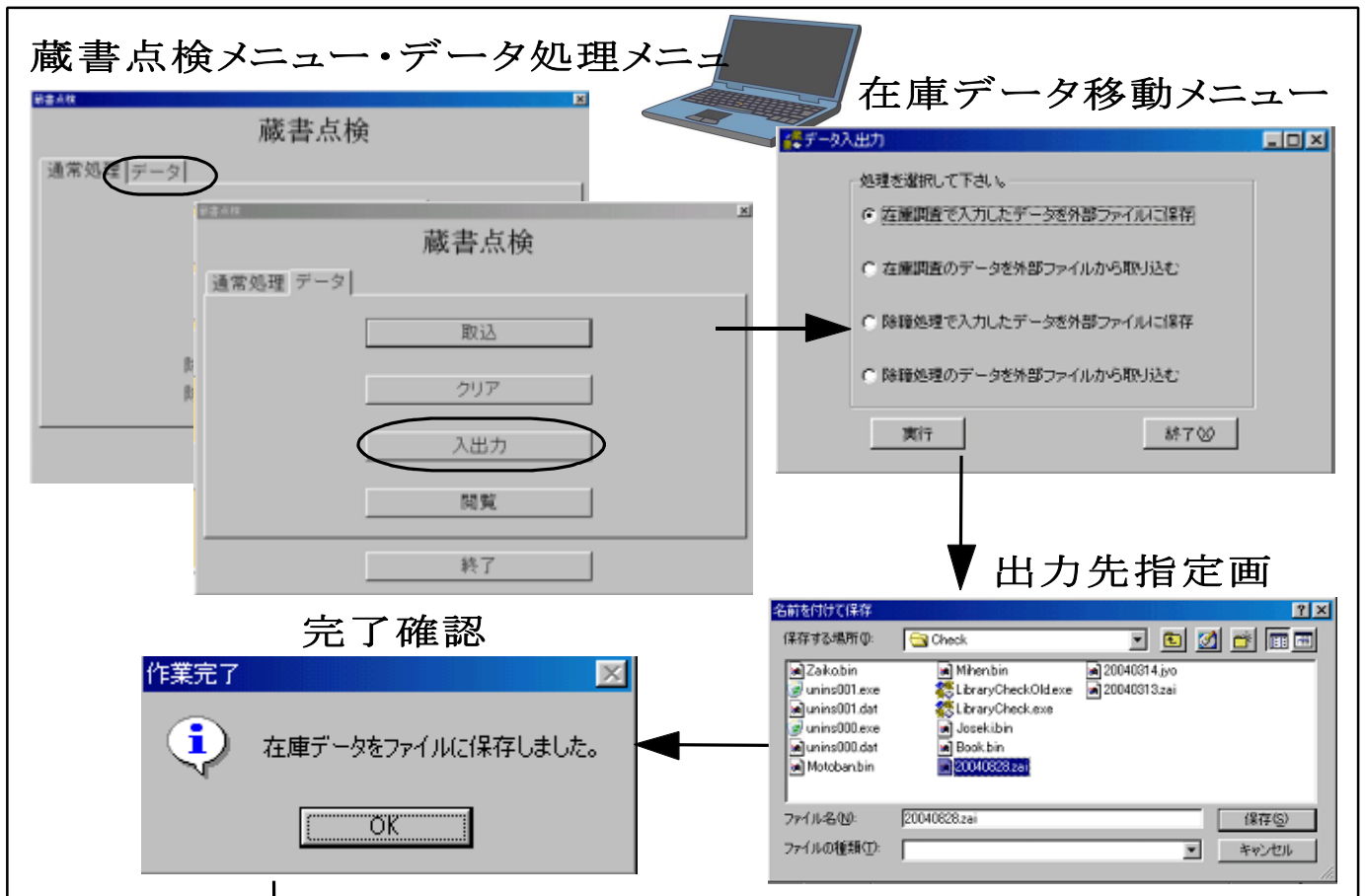
**図書館ナノを終了して再度図書館ナノを起動してから
蔵書点検データの統合作業に入ってください。**

蔵書点検（6）－データ出入力（複数蔵書点検）（2）

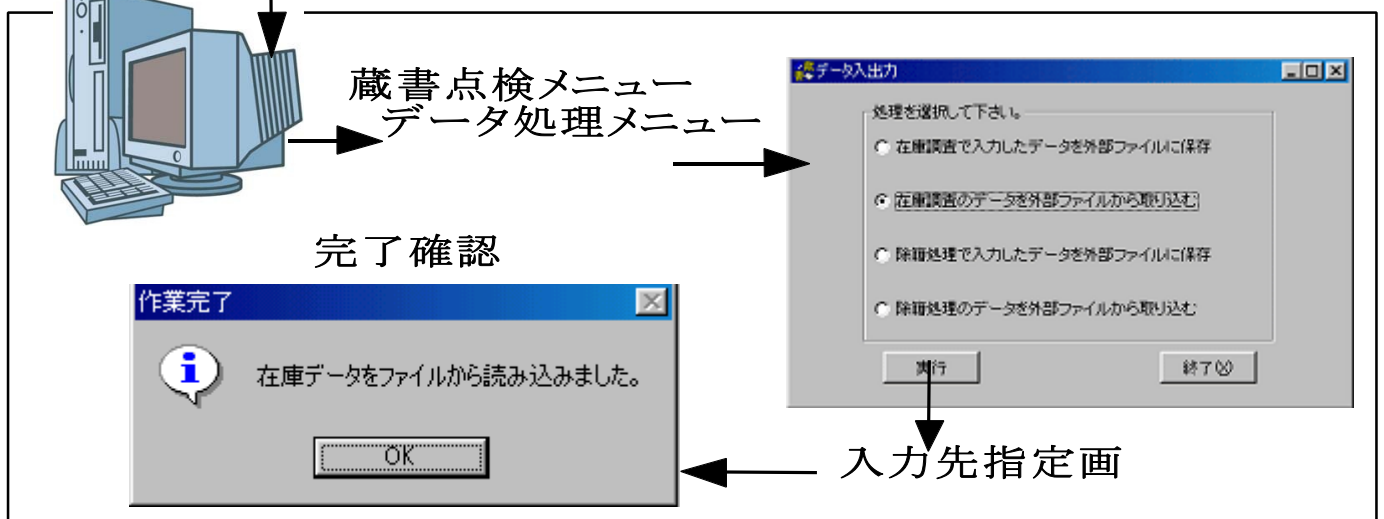
複数台登録の手順

この作業を始めるまえに図書館ナノを完全に終了する。

- (1) 点検済データをクライアントからメモリーなどに出力。
 - (2) サーバに点検済データを取込むとサーバーの点検済データと統合される。
 - (3) 印刷などの通常処理を行う。
- 注意：データ移動後追加点検をした場合は統合処理を再度おこなう。



サーバーに移動（メモリーなど）



データがなくなる場合

(1) 電源投入時毎にデータのクリアを行った場合。

データの復元は無理です。電源を切っても在庫調査データは消滅しないのでデータクリアは一連の在庫調査で一回だけ最初に行う。

(2) メニューの在庫調査をダブルクリックで開きシステムが二つ開きデータが通常処理ボタンが薄くなりデータがなくなった場合。

データの復元は可能です。在庫調査データは残っており再度データの取込を行ってください。在庫データを含め復活します。

サーバー機以外でこの事例が起こった場合はCheckフォルダ内のBookを正常に動作する機械からコピーして上書きする必要があります。